

荒川新聞

任長任部	掃合部
責員責伝	清組支
行委宣	京働川
行集育	東労荒
発執編教	
2010年12月15日 第4号	

荒川支部第65回定期大会

委員長・田中実

2010年10月30日
(土)に、荒川支部第65
回定期が行われました。
時間内組合活動の規制



支部定期大会で挨拶する田中委員長

により2008年度から全員が1時間の時間休を取り定期大会を開催してきましたが、組合員の減少による収入減により補償費等が大きな負担になる為、今年度から代議員制の定期大会となりました。

荒川区は「退職者不補充、業務委託、派遣、臨時職員の活用等」の厳しい攻撃が続いています。退職者見合いで資源、粗大を委託させ、今年度の欠員14名という異常な数を臨時職員で凌いでいます。

区当局は退職者不補充の一点しか見ず、何も知らない安価な臨時職員を使う事により、区民サービスは確実に低下しています。

こうした事から、9月24日に執行委員全員で環境部長要請行動を行いました。

大会特集号

「平成23年度清掃事業新規採用要求書」を提出し、合わせて現場の声として、3名の仲間からこの間の厳しい作業実態を訴えてきました。環境部長からは、

「清掃事業は、区民の快適な生活環境の維持・向上を図っていくうえで、一日も欠くことのできない事業であり、部としても14名の臨時職員で対応している状況は解消していかねければと考えています。」

一方で、長引く景気低迷が地域経済にも深刻な影響を及ぼしており、区の財政状況は以前にも増して厳しい状況となっています。

こうした状況の中、業務の効率化を図りつつ、区民の期待に応えるべくサービスの向上に努めていかなければなりません。

「これらの背景を踏まえ、みなさんから要求されている今後の『清掃事業のあり方』について、改めてお示ししたいと考えています。皆さんからの要求につきましては、このような区を取り巻く厳しい状況などを踏まえまして、総合的な観点から慎重に検討してまいります。」

以上の回答があり、10月には荒川支部の総力を挙げた区長要請行動を予定していましたが、12月になつた今でも実現されておりません。これは当局側の怠慢であり、誠意ある対応とはまったく言えないものです。

我々としては早急に要請行動を行い「今後の清掃事業についてのあり方」についての踏み込んだ発言を引き出し、新規採用を勝ち取りたいと現在も協議を重ねています。

区民の生活と環境を守る清掃事業を確立してい

く為には、区当局からの攻撃に屈せず、一人ひとりが今まで以上に直営の重要さを認識し、諦めずに新規採用を勝ち取る闘いを強める必要があります。

これからも本部・第二地連に荒川支部一丸となつて結集し団結してがんばります。

2011年度
荒川支部三役体制

- 執行委員長 田中実
- 副執行委員長 木島 豊
- 書記長 西谷修一
- 書記次長 野口悟
- 会計 戸張義弘
- 特別執行委員 恵良伸介